

渡良瀬遊水地保全・利活用協議会 遊水地保全・再生検討部会
協議内容についてのアンケート【要約】 (28.1.27)

渡良瀬遊水地全体及び周辺について伺います。

1. 外来種の動植物対策（動物(昆虫、魚など)、植物）について

①	外来動植物の現状	<p>(外来の動植物について、今の状況を知っている範囲でお書きください)</p> <p>植物：セイタカアワダチソウ、アレチウリ、オオブタクサなどの外来植物がヨシ原の中に混在している。</p> <p>水生生物：ウシガエル、アメリカザリガニ、ブラックバス、ブルーギルなどが調節池内、池内水路で確認されている。</p> <p>昆虫：外来種はここ5～6年著しく、目立っている。また、温暖化により、暖地に生息していた種が北上し、北上昆虫の増加も著しい。</p>
②	外来動植物の問題点	<p>(①の現状において問題となることはどのようなことでしょうか)</p> <p>植物：外来植物は繁殖力が強く、他の植物の生育を妨げる物質をだすものもあり、希少植物の生育へ悪影響を与える。また、遊水地の生態系が壊される可能性があり、多様性が低下する恐れがある。</p> <p>水生生物：水草・水生昆虫・小魚を捕食するため生態系が壊される可能性がある。</p> <p>昆虫：生息場所や食物が競合する在来種に対する生態系への影響が考えられる。しかし詳しくは調べられていない。</p>
③	外来動植物への対策	<p>(②の問題点についてどのような対策が必要だと思われますか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来植物対策のために、適正な時期に適度な水入れを行う。ヨシ焼きを継続するとともに、適期に必要な野焼きをする。 ・アメリカザリガニ、ブラックバス等の駆除の実施。 ・駆除することは必要だが、その方法をいろいろ研究することが必要 ・対策マニュアルを作成する(種のリストアップ、対応の有無の判断基準など)。 ・外来種被害予防三原則(入れない、捨てない、拡げない)の周知・広報。
④	外来動植物への取組	<p>(実際に貴団体で取り組んでいることがありましたらお書きください(開始時期、実施頻度、実施内容等))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絶滅危惧種(ノジトラノオ)の保全事業の中で、セイタカアワダチソウなどの除去活動を実施 ・環境学習フィールドを活動場所にヤナギ・セイタカアワダチソウ除去作戦を実施している(年間5回程度)。 ・湿地再生実験地において、外来種の侵入状況を「生きもの調査」として、植物、昆虫、野鳥を中心に2014年から、年間を通して原則毎月実施している。
⑤	外来動植物関連その他	<p>(外来の動植物に関することについてその他何かありましたらお書きください)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来動植物の除去に当たっては実施方法、適正規模、生態系への影響などを考慮し、遊水地全体で考えて実施すべきと考える。 ・外来種の侵入は防止するが、現在、生息している外来種はどこまで対応するか。一部の種にとらわれると、全体が見えにくくなる。 ・湿地環境や希少種への影響を考慮し、活動の適正規模や頻度等について研究していかなければならない。